

研究・調査報告書

報告書番号	担当
165	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Ethnicity, alcohol drinking and changes in transaminase activity among heavy drinkers. 大量飲酒者での人種、飲酒量とトランスアミナーゼ活性の変化	
執筆者	
Stewart SH, Connors GJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Natl Med Assoc. 2007 May;99(5):564-9.	
キーワード	
人種、アルコール、アスパラギン酸、アミノ基転移酵素、GPT	
要 旨	
<p>背景： アメリカでの肝硬変の死亡率は人種によって異なっている。これまでの研究ではアルコール感受性との関係が示唆されている。この研究では多量飲酒者のアルコール摂取による AST、ALT の変化が人種によって異なるかについて検討した。</p> <p>方法： DSM-IV によるアルコール乱用あるいはアルコール依存症の人に心理社会的な治療を行いその効果を検討することを目的とした多施設共同研究である multicenter alcohol use disorders treatment trial(MATCH)からの 1691 名を対象として研究を行った。本研究では、AST、ALT の 15 か月の変化を人種、年齢、性別、研究施設、経過時間、アルコール摂取量を用いたモデルで検討した。特にアルコール摂取量の変化による、トランスアミナーゼ活性の変化が人種ごとに差があるかについて検討した。</p> <p>結果： すべてのアルコール摂取量で AST はノンヒスパニックの白人で、アフリカ系アメリカ人、メキシコ系アメリカ人より低かった。アルコール飲酒量変化による AST の変化は人種による違いはなかった。ALT はメキシコ系アメリカ人とノンヒスパニック白人でのみ有意に違っていた。AST と同様にアルコールに関連する ALT の変化は人種差が見られなかった。</p> <p>結論： アルコール飲酒による障害の治験の参加者では、アルコール摂取量変化によるトランスアミナーゼ活性は人種によって変化はなかった。一般集団ではアルコールは人種の違いによる他の因子を介して肝硬変の予後に影響を及ぼしているかもしれない。</p>	